

平成17年度率先実行大賞 受賞取組概要

部局名		活動テーマ ()内の数字は応募の際の整理番号	グループ名	取組概要
1	紀北県 民局	(8) 接遇アンケートNO.1の原点？ ～紀北はまち座の経営品質向上活動～	紀北はまち座	紀北県民局の若手主体の横断的な経営品質向上ワーキンググループ。 経営品質の知識と意識の底上げに重点を置き、風通しの良い明るく楽しい職場環境の醸成を目指している。 具体的には、庁舎への前向きな言葉の掲示、感謝の気持ちを伝えるハローカード、メルマガの発行、エクセレント大賞などを実施。 今年度、全庁的に行った来庁者アンケートでは、全庁舎の中でトップの好評価を来庁者から得た。
2	総務局	(12) インターネット公売～税込確保の取組～	インターネット 公売グループ	インターネット・オークションサイトを活用したインターネット公売を平成17年10月から開始。(全国6番目、中部では初) 過去3回公売を行っても売却成立しなかった物件が、公売オークション史上最高額の3億1千2百万円で売却できた。 12月からは、自動車、美術品など動産のインターネット公売も開始。 新しい滞納整理手法を確立したことに加え、県民への周知による滞納防止、全国自治体へのPRなどの効果があった。
3	津地方 県民局	(20) みんなで創った『地域と人を知るしくみ～ええとこめぐりスタンプラリー～』	津地方県民局農 水商工部商工 G・農政G	「住民や観光者に新しい津市を知ってもらう機会」「新しい津市の住民同士の交流を図り、地域の魅力再発見のきっかけづくり」を目的に、津地方県民局が地元10市町村と取り組んだプロジェクト。 観光施設や新鮮な地域農水産物を販売する直売所(62カ所)をめぐるスタンプラリーを企画・実施。 スタンプ総数は約37,000個。参加者からは良好なアンケート結果が寄せられ、新しい津市の「ええとこ」の再発見と新たな発見につながった。
4	伊賀県 民局	(25) 伊賀県民局ロビーコンサート	伊賀県民局生活 環境森林部	文化芸術の鑑賞や活動の機会が十分とはいえない伊賀地域で、住民が身近に文化に親しみ、楽しむことができる場を提供するとともに、地域で活躍する音楽家の活動を支援するため、伊賀庁舎の吹き抜けロビーを利用してコンサートを開催。 活動主体は、伊賀県民局生活環境森林部の有志。毎月1回昼休みに開催し、毎回100名ほどの住民・職員の参加がある。
5	紀南県 民局	(29) 「ゆる体操」で健康長寿～紀南健康長寿の取り組み～	紀南健康長寿推 進協議会ゆる体 操部会	日常的に運動習慣を持たない人でもあっても、取り組むことができる運動法として考案された「ゆる体操」の普及啓発を目指す紀南健康長寿推進協議会の取組 ゆる体操を地域に根づかせるための地元指導者＝ボランティアリーダーを養成。年々、多くの地域住民や団体を巻き込みながら、活動の幅を広げている。 その効果は科学的にも実証されており、健康長寿日本一の地域づくりを目指す紀南地域のインフラとしての位置づけも大いに期待されている。またTVや雑誌でも何度も取り上げられ、紀南発の情報発信を行っている。
6	紀北県 民局	(41) 熊野古道と薬草で東紀州を元気に！	紀北県民局保健 福祉部衛生検査 グループ	温暖な気候と豊富な雨量を有する東紀州には150種類以上の薬草が自生。 その薬草と健康をテーマに保健福祉部ならではの観点から、地域ブランドを創出するとともに、熊野古道の魅力をさらに向上させた。 熊野古道薬草弁当を開発し、地元飲食店の参加を得て販売。また、熊野古道語り部を対象に薬草観察ガイドを養成、薬草観察しながら古道ウォークという熊野古道の新たな楽しみ方を提案した。

平成17年度率先実行大賞 受賞取組概要

部局名	活動テーマ ()内の数字は応募の際の整理番号	グループ名	取組概要
7 東京事務所	(51) 首都圏から三重県への修学旅行誘致	東京事務所観光政策研究グループ	東京23区の公立中学校の大多数が京都・奈良への修学旅行を実施しているなか、学校側が修学旅行に真に望むこと（体験活動等を通じた学びの機会）をニーズとして掴む活動を展開。 約15年程前を最後に三重県を訪れる学校は無くなったところに、東京事務所の機能を発揮させ、そのニーズを観光担当部門および地域につないだ。 その結果、約15年ぶりに平成19年度実施の修学旅行に2校が三重県を訪れることが決定。さらに2校が検討中となっている。
8 南勢志摩県民局	(57) おひなさまめぐりによる地域おこし	南勢志摩県民局観光・商工グループ	お雛様を飾ったまちおこしとして、「おひなさまめぐりin二見」を開催。 住民主導のまちづくりイベントを行政が支援することを通じて、総来場者32,500人と予想を超える多くの人々が二見を訪れ、約8,200万円の経済波及効果が得られた。 このイベントを契機に自分たちから仕掛けて楽しむことを地元住民が体感。交流が生まれることで、二見のあちこちで昔の風情が取り戻されつつある。
9 健康福祉部	(59) 改革ツールISO9001の民間企業への展開（食鳥肉の安全・安心確保システム）	松阪食肉衛生検査所食鳥担当班	ISO9001の認証を受け5年間の改善実績のある松阪食肉衛生検査所が、その保有するノウハウを、食鳥処理場（民間企業）へ水平展開し、独自の「食鳥処理場HACCP手法推進・認定システム」を構築した。 このシステムにより、食鳥処理場の5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）が向上。 衛生・品質の両面での改善スピードも向上し、食鳥肉の安全・安心確保に向けた取組として全国的にも注目されている。
10 教育委員会	(73) 名張高校における学校経営品質向上活動-ミッションステートメントを活用した目指す学校像実現に向けた取り組み-	県立名張高等学校	学校経営品質向上活動の取組の一つとして、全教職員・全生徒が目指す学校像の実現を意識したミッションステートメントを作成。 各人が掲げたミッションを、定期的に学校長・担任との面談によって確認している。 教職員の意識改革が進んだだけでなく、生徒においても学習意欲の向上、部活動への加入率の向上、遅刻・早退数の減少などの成果が見られている。
11 県土整備部	(90) 景観まちづくりの実践～新しい時代の県土づくりプロセスへの挑戦～	県土整備部住民参画室	公共事業を実施するにあたり、従来のように道路や河川を単に土木工学的な視点から検討するのではなく、総合的な「景観まちづくり」のなかで考え実践した新しいプロセスへの挑戦。 熊野古道の修景整備、伊勢市駅前や鳥羽駅前での景観に配慮した道路整備など、「鳥の目」で歴史・文化を含めた街並みを探索し、「虫の目」で公共施設をデザイン。 現場における連携、県庁内における連携など、多面体まちづくりを実践することで、地域住民の思いの実現につなげている。